

防衛医科大学校病院 医療安全・感染対策部では、防衛医科大学校長の承認を得て、下記の研究を実施します。

「手術時手袋の穿孔率の検討」についてのご説明

【研究責任者・分担者】

研究責任者 医療安全・感染対策部 教育職（一）2級 小林美奈子
研究分担者 医療安全・感染対策部 医療職（三）2級 市江希

【研究の意義・目的】

手術時には医療従事者と患者間の病原微生物の伝搬経路遮断のため、通常、手術時手袋を着用します。しかし、手術時手袋は術中に針刺しや劣化等で、損傷することが多く報告されています。

一方近年、手術技術は進歩し、開腹手術から鏡視下手術へと変化してきている中、手術時手袋損傷は開腹手術での検討は多く報告されていますが、鏡視下手術での報告はあまりありません。

今回の研究では、消化器外科手術における手術時手袋の損傷を開腹手術、鏡視下手術別に検討し、それぞれの穿孔率を明らかにします。

【研究実施施設】

防衛医科大学校病院

【研究対象】

本研究は、承認日より約1年間、防衛医科大学校病院で消化器外科手術に参加する外科医師と直介看護師および、対象者の使用済み手術時手袋

【研究内容】

手術時に使用した手術時手袋を対象に穿孔の有無を検討します。本研究は通常の診療・手術を超える医療行為は無く、患者、医療従事者の双方に余分な負担は生じません。手術時手袋の種類、1重・2重着用、交換頻度等、従来通りで行って下さい。

【個人情報の管理】

本研究は、個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定出来る情報を削除し管理します。また、本研究の実施過程およびその結果の公表の際には、個人を特定出来る情報は一切含まれません。また、データの保存やデータ処理を行うPCは情報漏洩を防止するため、研究責任者のみが取扱い、部外者には一切公開いたしません。研究データが保存されるPCは防衛医科

大学校病院医療安全・感染対策部の業務用 PC で厳重に管理、保管されます。

【研究結果の公表】

得られた研究結果については論文として査読付きの雑誌へ投稿します。研究結果の報告及び論文化に関しては、研究に携わった研究者の氏名のみが公表され、研究協力者は特定出来る様な個人情報とは公開しません。実験で得られた全ての情報は、研究の終了について報告した日から 10 年間保管します。当該保管期間の後、保管されたデータは復元できない様な処理された上で破棄します。

【本研究に関する費用負担、研究資金】

本研究に関する資金負担はありません。また資金源は、医療安全・感染対策部の研究費により実施します。

【本研究に際し手袋の提供をご希望されない場合について】

研究期間に消化器外科手術に参加された方の中で、本研究に手袋の提供をご希望されない場合については、下記までご連絡頂いた上、使用済手袋回収ボックスに入れないようにして頂きますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

防衛医科大学校病院 医療安全・感染対策部

Tel 04-2995-1511 (内線) 3405

休日・時間外 E-mail m-koba@ndmc.ac.jp